

1. 自己紹介(掲載は所属等のみ)

なかどまり 仲泊 きとし 聡 公益社団法人 NEXT VISION 常務理事

山本 雅美 神戸総合医療専門学校 KCC 視能訓練士科 学科長

喜多 伸一 神戸大学 大学院 教授

みしな 三品 ひろき 浩基 神戸市こども家庭局 家庭支援課 課長

川畑 義和 神戸市福祉局 障害福祉課 課長

正井 隆晶 大阪教育大学 特別支援教育部門 特任准教授

鈴木 豊子 PTA 会長

2. 進路等についての質問に関する回答(抜粋)

- ・「オーカム」いい評価を得ている。
- ・盲学校の生徒数増を狙うには、普通科の学びの方向性が大切。
→「盲学校に行くといい」となっていない。デメリットをいかに減らすか。
- ・個別教育のメリットがあまり知られていない。
→違うなら違うで良い。目標を明確にする。
- ・大学進学率が良いかどうかを単一障害の方は気にしている。
→普通科からの進路としては高校と変わらないことを伝えている。
- ・西宮、尼崎在住の方が神戸盲を通り過ぎて、兵庫県立視覚支援学校にしか行けない…。
→地域の普通校に進学する
- ・教育内容ですみわけができれば…
→神戸盲：単一メインで大学進学を目指す学校に
兵庫県立：
- ・理療科(全国的に見て、入学生が減少傾向にある)
→非常に重要な「あんま・針・鍼灸」をほぼ費用がかからず国家資格が取れることが
メリットだったはず…
→理療科を出て「あんま・針・鍼灸」資格を取って就職 平均所得が高い
一般職で就職しても…
理療科教員になる(地方公務員)で平均所得が高い
- ・大学での学び
→学校の問題、※塾が受け入れてくれない
- ・神戸アイクリニック
→世界中の人を対象にできるか
- ・専門学校に就労支援はないので…
- ・今の高校生を見ていると夢を持っていない
何となく大学へ行く等、親が決めている
- ・高校は進路ガイダンスの時間をたくさん取っている
専門学校から出前授業→夢を持たせることが大切(何のサポートが専門学校としてできるか…)
- ・学習塾 大学へ安易に進学させる×

AO 入試 何をしたいのか ➡ビジョンを持たせる

- ・すみわけ 県盲・市盲：市盲がアクセス等においていい環境にある
- ・3歳児検診でメガネをかけている人が増加している
➡検査ができない 神大やこども病院は6か月待ち 「ひとみ教室」で対応できないか
- ・神大には障害者がいないので具体的なことは言えない
権利委員会：日本は逃げている気がする 日本語訳がなかなか出てこなかった
就労支援はICTの活用で。 あはぎは守っていききたい。
- ・子どもたちの健やかな育ちに尽力したい
「学校の選択」➡生きていく上で何を重視するか
少人数教育：交流の機会が少ない
他者との関わりが欲しい ➡部分的にでも交流の場面をつくる
思春期を迎えると孤立 ➡ 居場所づくりが必要
- ・県盲とのすみわけ➡市盲を選んでもらうためには…
どういった進路先・進学先になっているか発信していくことが大切
※市盲の強みを発信できれば、生徒数も増えていくのでは
- ・それぞれの就職先を将来的に知る機会が必要
- ・人事面での小学部・中学部・高等部の問題
理療科教員が多かったためノウハウを持つ教員がいない
例、高校で進路指導をしたことがない
進路先の事務所とのつながりが無い ➡ 開拓していくことが難しい
そういう経験を持っている人に来てもらう
例、パイプを持っている人に異動してきてもらってノウハウを提供してもらう
- ・できるだけ早い段階から実習を開始(高1から見学と実習)
早期の実習・長期間の実習の実現
- ・大学進学に関して
目的をはっきりさせ、中学部の段階からスタートする
- ・ハプニングを想定して実施する
忘れ物や大雨でも、実際に通ってみる➡どう対応できるかを見たい
- ・小規模校になっていくと進学・就職の対象生徒が続かないことがある
➡折角のノウハウが蓄積されない
- ・理療科
江戸時代から続くもので、大学進学➡一般職に就職でうまくいなくても
理療に戻ってきたらいいんだよは伝えて欲しい
- ・遠隔学習塾 ぜひできて欲しい
模擬テスト点字版も
参考書はサビエで充実してきている

3. 校長より

本校の立地条件の良さを活かしていきたい

小学校との交流(特に隣接する湊小)を活発にしていきたい

○次回は、11月中に実施予定(運営協議会の方々の日程、学校行事・管理職の出張日程を調整して決定)

貴重な話が聞ける機会なので、PTAの方々にも案内して参加していただく方向で計画する